

令和4年度 第2回 磐田市遠江国分寺跡整備委員会 議事要録

- 1 開催日時 令和5年3月27日(月) 14:45～16:15
- 2 開催場所 磐田市役所 本庁舎 1階 第1会議室
- 3 出席者
(1) 整備委員：上原真人（委員長）、平野吾郎（副委員長）箱崎和久、中島義晴、
秋山勝則、小栗宏之、澤元教哲、小杉達、小杉泰久、大場雅行
※石上委員は当日欠席、事前意見聴取
(2) 静岡県文化財課：武田寛生
(3) 事務局：磐田市教育委員会文化財課 竹内、神谷、室内、大村、鈴木

次第

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 静岡県文化財課あいさつ
4. 議事

【報告事項】

- (1) 令和4年度 遠江国分寺跡整備工事について

事務局 令和4年度に実施した講堂と僧房の木装基壇復元整備工事の過程および結果について報告を行った。

- (2) 文化庁協議事項（R5.2.15）と今後の方針について

I. スロープについて

事務局 前整備委員会での意見を踏まえ、スロープ設置基数や仕様等について、文化庁と協議を行った。

文化庁調査官より、史跡整備においては、スロープの設置が必要最小限で、かつ効率的な周遊計画であることが重要であり、4基設置するとしてもそれが遠江国分寺跡においては、必要最小限であることを説明できるようにしておくように指導があった。

また、次の段階として、文化庁史跡部門の調査官と協議を行い、工事の現状変更許可が下りるまで、磐田市から説明に努めるように、とのことであった。

今後の対応としては、文化庁史跡部門の調査官に説明をした上で、指導を仰いで、スロープの設置に関して確認を行っていく。了承後は、実施設計図の変更を行い、工事はその後実施する。

〔質疑・意見〕

委員 スロープは、見学者の多様性への配慮であり、いろいろな人が自由に見られるようにしてほしい。車椅子の方に、遠回りしてくれとは言えない。そういう意味では是非、地域の住民としても、お願いしたい。

委員 専門委員会でも、東からのアプローチというのは必要だということで、(スロープ設置についても)文化庁を説得してほしいという方向となった。整備委員会全体の総意としてもバリアフリーを徹底した、スロープの設置を主張していきたい。

Ⅱ. 築地塀について

事務局 前整備委員会での意見を踏まえ、築地塀の整備について、文化庁と協議を行った。

文化庁によると、東側に建てるのは復元の難易度的に1番高いとのこと。復元検討委員会に諮るのであれば、とにかく遺構、遺跡として真実性を求められる。東側築地塀の位置を検討するため、2年ほど復元検討委員会に諮る前に時間がかかるとみられる。

また、アピールや誘客というような点であれば、築地塀を東側で原寸大に復元することが最良なのか再検討してみても、との提案もあった。ARやVR、アナログAR、デジタルサイネージなどの活用も検討対象となるか。

今後は、築地塀復元案の妥当性や東側築地塀の検討を専門委員会で引き続き行っていく。併せて整備方法についても、検討していきたい。

〔質疑・意見〕

委員 駅から道路を歩いてきて、築地塀を見てから、イメージを持って中に入るというのは、史跡等において積極的な意味を持つと思う。本当は七重の塔が建てれば1番いいんですけども、そうはいかない。築地塀は可能であれば、地元住民からの強い意見として東側に建ててほしい。

委員 中泉と見付は、歴史と文化のまちということで今進めている。この天平の町から、見付の宿場通りということで、やはり観光と文化のまちを目指している。そういった中において、東側に築地塀を設置する必要性は、非常に強く推しているところですので、是非お願いをしていきたい。

委員 この町の周遊、駅からの周遊ってことを考えるとやっぱり東側ってというのは、ポイントの一つにはなると感じている。

磐田市は文化財保存活用地域計画を県内でも最初につくっており、その中で国分寺は中泉地域の中で保護と活用をうたっている。是非そういった形でやれるのがいいと思っている。ただ、現実的でないものを追って時間ばかりかけて、市民の方に披露出来ない、活用出来ないというのも心配している。

委員 専門委員会でも、東側が重要であるという点で、事務局のほうでは文化庁に説明していただきたい、ということをお願いした。整備委員会のほうでも、同じような意見として主張して欲しい。

5. 閉会 【現地視察】